

注意報

長崎県病虫害防除所長

平成27年度病虫害発生予察 注意報第5号

いちご ハダニ類 (ナミハダニ、カンザワハダニ)

1. 発生地域 (対象地域) 県内全域

2. 発生程度 多

3. 注意報発令の根拠

(1) 3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は11.3%(平年5.1%)と過去10ヶ年で最も高く、発生圃場率は55.6%(平年37.8%)と平年より高かった(図1、2)。

(2) 向こう1ヶ月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

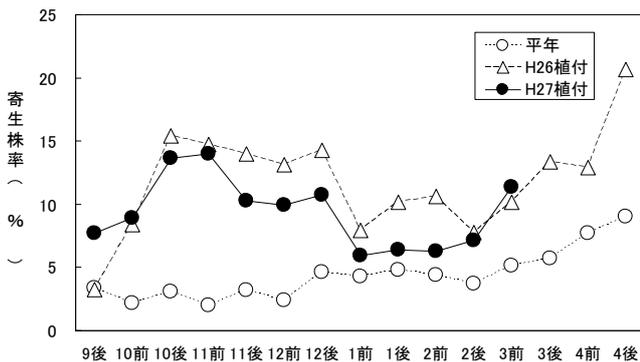


図1 いちご ハダニ類 寄生株率の推移
平年:H17~H26の平均値(最大・小値除く)
ただし、12/後、1/後、2/後はH19~H26の平均値

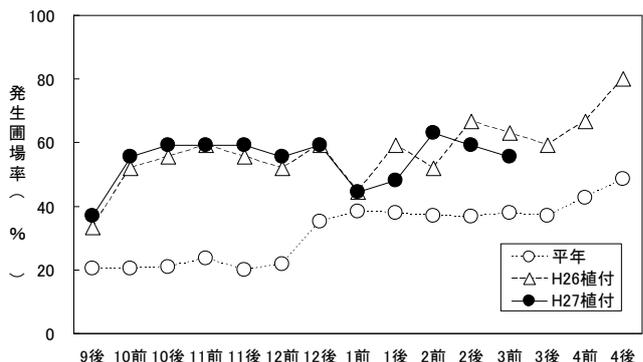


図2 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移
平年:H17~H26の平均値(最大・小値除く)
ただし、12/後、1/後、2/後はH19~H26の平均値

4. 防除対策

(1) 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。特に「ゆめのか」は「さちのか」よりも茎葉が繁茂しやすく、農薬が葉裏まで十分かかりにくいいため注意する。なお、古葉を摘葉後に防除すると効果的である。

(2) 既に多発している圃場では、1回の薬剤散布のみでは薬剤の付着むら等で効果が不十分となる場合があるので、効果を確認しながら数回の連続散布を行う。

(3) 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。本県の薬剤感受性については、平成26年いちごのナミハダニ薬剤感受性検定結果および平成27年いちごのナミハダニ薬剤感受性検定結果参照。なお、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤は、卵に対する効果が低いので5~7日おきに連続散布を行う。

(4) 天敵を放飼している圃場では、天敵に影響の少ない薬剤を散布する(表1)。なお、薬剤散布に当たってはラベルを確認し、使用回数等、使用基準を遵守する。

表1 殺ダニ剤の作用機構分類及び天敵への影響

殺虫剤の作用機構 分類(IRAC)	商品名	チリカブリダニへの影響
I: 25A	スターマイトフロアブル	○
I: 6	コロマイト水和剤	×
I: un	マイトコーネフロアブル	○
I: 25A	ダニサラバフロアブル	○
I: 20B	カネマイトフロアブル	○
I: 25B +21A	ダブルフェースフロアブル	×
-	アカリタッチ乳剤	○
-	サンクリスタル乳剤	△
-	粘着くん液剤	△

注1 - : 物理的作用 (気門封鎖)

注2 日本バイオリジカルコントロール協議会資料およびメーカー資料を参考にした。

○ : 影響なし、△ : やや影響あり、× : 影響あり

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス : <http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL : 0957-26-0027

